

省エネ、創エネで高評価

白浜のビジネス拠点

白浜町才野、南紀白浜空港展望広場(空港公園)内にあるビジネス拠点「Office Cloud 9 (オフィスクラウドナイン)」が、国土交通省が主導する建築物省エネルギー性能表示制度「BELS (ベルス)」で最高評価の「星5」を獲得。その中でもさらに省エネルギー性能に優れた建物として「Nearby ZEB (ニアリーゼブ)」の認証を紀南で初めて取得した。

クラウドナインは、高効率の空調設備や高断熱性能の建材の採用などで56%の省エネ、太陽光発電で25%のエネルギー創出(創エネ)を実現。施設全体で81%のエネルギー(石油、天然ガスなど)消費量を削減している。

60%以上削減したことで「星5」、75%以上削減したことで「ニアリーゼブ」を取得した。

省エネと創エネを合わせた消費量を100%以上削減している「ゼア」は全国で250施設、「ニアリーゼア」は全国で240施設ある(1日現在)。県内ではゼアとニアリーゼアが各

2施設ある。

星の数で5段階で評価する「ベルス」は2014年4月、「ゼア」は16年4月に始まった。いずれも第三者機関が認証している。

クラウドナインは、建設コンサルタント「オリエンタルコンサルタンツ」(東京都)と建設会社「浅川組」(和歌山市)が運営。県の事業者公募に採択され、企業誘致とワーケーションの促進、空港利用者の利便性向上などを目的に昨年10月に開業した。地元「紀州材」を使用した木造建築物で、コワーキングスペース(共有オフィス)や貸貸オフィス7室などがある。

省エネで高評価を得たビジネス拠点「オフィスクラウドナイン」(白浜町で)



今回の認証を受け、施設を運営する両事業者は「引き続き、地域活性化、持続可能な社会と温室効果ガスの排出を実質ゼロにするカーボンニュートラルの実現に向けて推進していく」と話している。

新たにIT企業が入居
クラウドナインにIT企業「Respan (リスパン)」(本社・東京、芳井清彦代表取締役)が今月から新たに入居し、11日から操業している。入居し

ている会社はこれで3社となった。

同社は、企業にIT人材を派遣するシステムエンジニアリングサービス(SES)事業やウェアブルシステム開発業務を手がける。地域のIT人材育成を支援する教育サービスも提供している。16年3月29日の設立で、従業員は3月末時点で81人。

同社は、クラウドナインにシステム開発・ワーケーション拠点、和歌山市九番丁の「九番TMGビル」にSES事業拠点を同時に開設した。3年のうちに正社員20人の雇用(地元雇用15人、転入5人)を予定している。

白浜町は「白浜町を選んだ良かったと思っています。いただけるよう全力でサポートしていきたい」と話した。